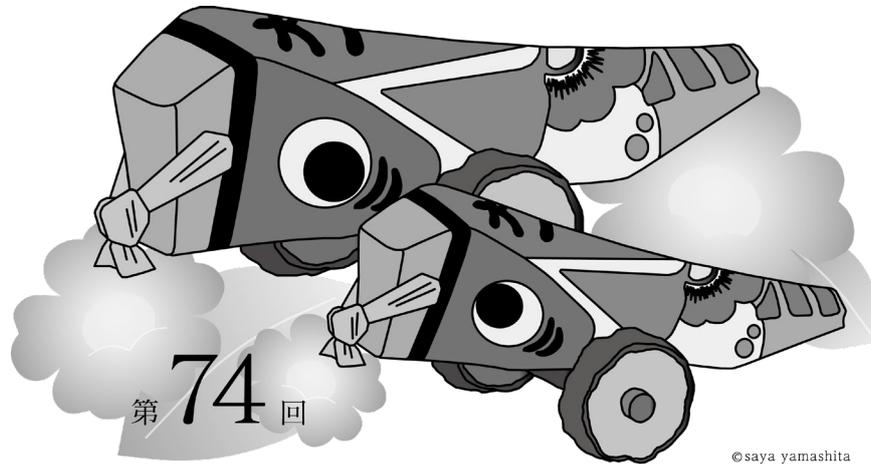


# 日本民俗学会 第74回年会 熊本

## 第1回 サーキュラー



新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や、各国を巻き込んでいく戦争など、世情が不安定な時代が続いております。新型コロナ感染が蔓延してからは、当学会においても、オンラインやリモートによる会議や研究会のかたちを継続している状況です。最近では社会全体がこの方法を慣例化してしまい、対面での集まりの代替えという機能としてよりは、積極的に会議や研究会のありかたの一つの選択肢として、定着しつつあるようです。しかし、「日本民俗学会第74回年会」においては、熊本大学のキャンパスを会場に、十分な感染防止対策をしながら、対面での学会開催に向けて努力することに決めました。

公開シンポジウムは「文化財と地域資源—活用をめぐる農政学との対話—」という、民俗学の原点でもあり、現代的な課題でもあるテーマに向き合います。以下の要領をご参考に、奮って参加くださりますようご案内を申し上げます。

なお、今後の感染症拡大の状況によりましては、ハイブリットやリモートでの開催方法への変更も考えられます。この点につきましては、変更があり次第、今後のサーキュラーや学会ホームページなどで、お知らせ申し上げます。

一般社団法人 日本民俗学会第33期会長 川島秀一

主 催 一般社団法人 日本民俗学会

協 力 熊本大学

期 日 2022年10月1日(土)・2日(日)・3日(月)

会 場 熊本大学 黒髪北キャンパス(熊本市中心区黒髪2丁目40番1号)

※実行委員会では宿泊等の斡旋は行いません。会場は熊本市中心部からバスで10分ほどです。大学近辺にはホテル等はなく、宿泊施設は市内中心部に集中しています。秋季の土日は混み合いますため、早めの予約をお願い申し上げます。

## 1. 会場アクセス

- ・ 鉄道をご利用の場合（熊本駅より）

熊本産交バス 熊本駅前2番バス停より、E 系統（子飼・光の森・大津方面）乗車、熊本大学前バス停下車（所要時間約 25 分）。バス停前の赤レンガの正門よりお入りください。

- ・ 空路をご利用の場合（阿蘇熊本空港より）

熊本空港ライナー（無料）乗車、終点肥後大津駅で下車。肥後大津駅より JR 豊肥線上り（熊本駅方面）乗車。竜田口駅下車。竜田口駅前バス停から桜町バスセンター・熊本駅方面に乗車。熊本大学前バス停で下車。下車後、左手に見える信号にて道路を渡り、右折、下り方面バス停前にある赤レンガの正門よりお入りください。

- ・ 会場の所在、アクセスに関しては熊本大学ウェブサイトもご参照ください。

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou>

## 2. 年会実行委員会事務局

〒 860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2 - 40 - 1

熊本大学文学部 山下裕作研究室気付

日本民俗学会第 74 回年会実行委員会事務局

電話 : 096-342-2462 (山下裕作研究室直通)

E-mail : minzokugaku74@gmail.com

※ 郵送に際しては学内での郵便事故に備え、上記宛名は省略せずにお書きください。

※ お問い合わせは可能な限り、E-mail をご利用ください。

## 3. プログラム

### 10月1日（土）公開シンポジウム・授賞式・懇親会

12:00 ~ 受付開始（文法棟正面エントランス）

13:00 ~ 16:30 公開シンポジウム（文法棟 A1 教室）<sup>1</sup>

「文化財と地域資源—活用をめぐる農政学との対話—」

16:45 ~ 17:15 研究奨励賞受賞式（文法棟 A1 教室）

18:00 ~ 20:30 懇親会<sup>2</sup>

- ・ 今年度の理事会・評議員会、および会員総会は本年会とは別途で実施される見込みとなっております。詳細は学会事務局からの告知をお待ちください。また今後の状況の変化により、プログラム内容が変更となる場合があります。

---

1 シンポジウムは今後の新型コロナウイルスの蔓延状況により、遠隔会場を設定する場合があります。

2 懇親会の開催は会場調整中につき詳細未定です。第2回サーキュラーにてお知らせする予定です。

## 10月2日(日) 研究発表

9:00 ~	受付開始(全学教育棟正面入り口)
9:30 ~ 12:00	研究発表(全学教育棟2階)
13:00 ~ 17:00	研究発表(全学教育棟2階)

- ・会場の概要については熊本大学ウェブサイトをご参照ください。<sup>1</sup>
- ・託児所の利用を希望される方は、年会申し込みの所定欄に必要事項をご記入ください。
- ・開始・終了時刻はいずれも現時点での予定です。発表プログラムは9月中旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

## 10月3日(月) 現地見学会(阿蘇)

訪問先(予定): 阿蘇の世界文化遺産的な景観地(南小国町満願寺、中原周辺)。

時間(予定): 10:00 ~ 16:00(予定)

10:00 JR 豊肥本線阿蘇駅集合(立野駅ではスイッチバックをお楽しみに!)

移動手段 : 集合後、現地車両にて移動。参加人数によってタクシーかバスかを検討します。

プログラム概要(予定): 阿蘇駅 10:00 → 10:45 満願寺周辺 12:00 → 昼食会場(蕎麦街道等南小国町)  
13:00 → 13:30 押戸石 14:30 → 15:00 大観峰 15:30 → 16:00 阿蘇駅着

※ JR 豊肥線 竜田口駅 8:26 発 → 肥後大津 8:51 着 ・ 8:56 発 → 阿蘇駅 9:42 着 ¥930

※ 当日空路でお帰りの場合、帰りの飛行機は阿蘇熊本空港 18:00 以降発をご手配ください。

※ ご希望であれば見学会後の(10月3日泊分のみ)の現地宿泊先(相部屋)を準備いたします。年会申し込み時に参加希望、宿泊希望について所定欄より申請してください。

※ 見学会参加費は現地決済で、交通費・昼食費・宿泊費・入場費等、実費分をご負担いただきます。概算は第2回サーキュラーにて告知いたします。

## 4. 参加・発表申し込み

- ・参加・発表を希望される方は、オンラインフォームか葉書のいずれかで申し込みください。運営の効率化のため、できるかぎりオンライン申し込みをご利用くださいますよう、ご協力お願い申し上げます。
- ・オンライン申し込みは第74回年会ウェブサイトのリンクを使用するか、右下のQRコードよりアクセスしてください。<sup>2</sup>
- ・オンラインでの申し込みは 2022年7月1日(金) 23:30 までに完了してください。
- ・葉書による申し込みの場合、同封の葉書に必要事項を記入し、切手を貼ってご投函ください。2022年7月1日(金) 必着とします。
- ・所属の記載方法については日本民俗学会ホームページの「定款・規定等」に掲載の「一般社団法人 日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性 の尊重に関する声明」をご参照ください。<sup>3</sup>
- ・出張依頼状が必要な方は所定欄にチェックの上、必要事項をお知らせください。
- ・託児所の利用を希望する場合には、オンラインフォームもしくは葉書の所定欄をチェックしてください。またお子様の人数、年齢等についてもお知らせください。

1 <https://www.kumamoto-u.ac.jp/campusjouhou/kurokamikitaku>

2 <https://www.nenkai74.fsnet.jp>

3 [http://www.fsnet.jp/information/regulations/diversity\\_2014-0713.html](http://www.fsnet.jp/information/regulations/diversity_2014-0713.html)



参加申し込みフォーム

- ・参加申し込み用の葉書には、住所変更通知など年会に関わらない連絡事項の記載はお控えください。
- ・お送りいただいた個人情報、第74回年会に関わる事務にのみ使用し、終了後は適時廃棄いたします。
- ・第2回目以降のサーキュラーは、今回参加申し込みをされた方のみにお送りいたします。なお電子版のサーキュラーは年会ウェブサイトにも掲載します。

## 5. 参加費

年会参加費	前払い	当日
会員（一般）	4,000 円	5,000 円
会員（学生）	2,000 円	3,000 円
非会員（一般）	—	5,000 円（当日受付のみ）
非会員（学生）	—	3,000 円（当日受付のみ）
<b>懇親会参加費</b>		
会員（一般）	5,000 円	6,000 円
会員（学生）	3,000 円	3,000 円
非会員（一般）	—	6,000 円（当日受付のみ）
非会員（学生）	—	3,000 円（当日受付のみ）
2日（日）弁当代	700 円	—（当日販売なし）

- ・会場の熊本大学黒髪北キャンパス近辺にはコンビニが2軒、飲食店も数軒ございますが、大学内の生協食堂は日曜休業になっております（土曜は 11:30 ~ 14:00 の間営業）。お弁当の事前購入をご検討ください。
- ・年会参加費・懇親会参加費・2日弁当代ともに、納入期限は 8 月 31 日（水）です。期日にて振り込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください。また、弁当の当日販売はいたしません。
- ・一度納入いただいた参加費等はいかなる理由があっても返却いたしません。ご了承ください。
- ・納入方法は、8月上旬に参加等申込者に送付する予定の第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

## 6. 研究発表様式

### 一般発表

- ・発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。
- ・一般発表を行う方は、オンラインフォームもしくは参加申し込み葉書にて申し込みください。
- ・発表内容は日本民俗学会および関連学会において未発表のものに限ります。
- ・備え付けの機材は PC 用プロジェクターと PC（Windows）です。機材の使用を希望される方はオンライン申し込み画面の所定欄にチェックしてください。葉書申し込みの方は葉書にご希望の旨、記載してください。
- ・発表は日本語でお願いします。

### グループ発表

- ・統一テーマのもとで 4 名以上の発表者からなるグループ発表を受け付けます。うち 1 人をグループ発表の代表

者としてください。

- ・グループ発表の場合は代表者の方だけではなく、その他の発表者の方も「研究発表申し込み」を行っていただく必要があります。
  - ・グループ発表の時間枠は120分となります。枠内の時間配分は代表者にお任せいたします。
  - ・グループ発表には適宜司会を設定していただくことができます。司会の登録は必要ございませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、学会側からの座長の配置はいたしません。
  - ・グループ発表で使用できる機材は一般発表に準じます。
- ※ 個人発表とグループ発表、両方での発表はできません。
- ※ 発表要旨は年会より前(9月)に年会ウェブサイト上にてPDFファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

## 発表資格

- ・第74回年会における発表資格条件は、2022年5月末日時点で2022年度の会費を納入済みの会員および名誉会員です。なお新入会員については、2022年5月8日開催の理事会で入会を承認されている必要があります。
- ・期限(8月31日(水))までに年会参加費の納入および発表要旨の提出がない場合、発表は自動的にキャンセルとなりますので十分ご注意ください。

## 託児所の申込み

- ・会場には託児室を設置する予定です。会員の方が会場で託児室の利用を希望される場合、今回の申し込み時にその旨ご連絡ください。あわせてお子様の年齢・人数等についても所定欄にてお知らせください。具体的な申し込み方法は、第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

## 書籍販売の申込み

- ・会員および出版社の方が会場で書籍の販売を希望される場合、年会ウェブサイトに掲載する「書籍販売登録票」にご記入のうえ、8月31日(水)までに年会事務局宛てに申し込んでください。具体的な申し込み方法は第2回サーキュラーにてお知らせいたします。

## 7. 今後の日程

オンライン申し込み期限	7月1日(金) 23:30
葉書での申し込み期限	7月1日(金) 必着
第2回サーキュラー	8月上旬発送予定(参加申し込みの方のみ) 内容: 参加費納入方法、その他年会参加に関する連絡事項、発表要旨の提出方法、発表要領、託児所の利用について、書籍販売申し込み要領、出張依頼状(希望者のみ)
参加費納入期限	8月31日(水) これ以降は当日料金になります。
発表要旨提出期限	8月31日(水)
書籍販売申し込み期限	8月31日(水)
第3回サーキュラー	9月中旬発送予定(参加等申し込みの方のみ) 内容: 会場案内、発表要領、各発表プログラム

## 文化財と地域資源 —活用をめぐる農政学との対話—

### 主旨

平成31年から令和3年に至るまでの文化財保護法の改正は、文化財の保護に加えて「活用」を強く求める内容となっている。改正前においても「文化財」は、主として学校教育や生涯学習等での活用を求められてきたが、今次の改正における「活用」とは、その発議時に「インバウンド」の資源としての活用が念頭に置かれ、まちおこし等での直接的な経済効果を生み出す「活用」が求められているようにみえる。また、一方で未指定の文化資源の登録による文化財化、その登録における地方自治体の権限の強化などが図られ、文化財のすそ野を広げようとする改正もなされている。そして、現在は各都道府県による「文化財保存活用大綱」（マスタープランに相当？）が作成され、その後市町村による「文化財保存活用計画」（アクションプランに相当か？）が作られることになっている。

こうした現状にあって、学問として積極的に文化財行政の現場に参与しつつあるのが、都市計画学と建築学等の工学分野である。重要文化的景観選定においてその傾向は顕著である。そうした領域において、歴史的な建造物や文化的な景観は、何よりも高い価値を持つ文化財と位置づけられる。なによりだが、現代の生活変化の中における文化財の位置づけ、担い手となる現代の住民にとっての文化財の価値という、従前から文化財行政を担ってきた学問領域が持つ懊悩に関しては、無頓着なようにも見える。

こうした比較的新しい文化財の範疇や、また日本遺産等の導入により、文化財行政における民俗学の立ち位置は徐々に小さなものになりつつあるのではないか。そして現場の学芸員等の担当者は、少ない予算と、減少しつつある担い手という現実の中で、保存という命題に悩み、活用という課題に戸惑っている。なんとか真摯な文化財行政としての突破口を、学会として見出さなければならないのではなかろうか。

そうしたなかでも、一部ユニークな「活用」への取り組みも散見される。文化財レスキューを通じたコミュニティーの再生や、復興意欲の醸成。現代日本における最新・最大級の文化的事業である地域芸術活動への参与などである。どれも希望がもてる有意義な取り組みであるが、未だまとまった議論や評価の俎上には乗られてはいない。

また、文化を資源として評価し、以前から「活用」し続けている領域は他にもある。農業経済学や農村計画学（かつての農政学）がそれである。昨年度の優秀農林水産業者の「むらづくり部門」における天皇杯（大賞）の受賞地区は熊本県上益城郡山都町白糸第一振興会であった。国の重要有形文化財「通潤橋」を擁する地区である。具体的には2008年の重要文化的景観選定を期とした様々な農業・農村振興活動が高く評価されたのであるが、その選定そのものが1999年に始まる熊本県による地域用水整備事業（歴史環境保全型）という基盤整備事業によって実現したものと言ってよい。農業土木技術者たちの学問と技術によるところが大きいのである。また、その地区の農業者にとって、最も有効な施策だったのは「中山間地域等直接支払制度」であるという。「多面的機能直接支払制度」ともあわせ、これら日本型直払い制度という施策は、農業経済学や農村計画学がGATTウルグアイラウンドより、農林水産行政の場で議論し続け、とりまとめ、国民の理解を得るために努力を重ねた「農業・農村の多面的機能」や「地域資源」の概念があったからこそ実現したものである。

現在、「むらづくり」等の農業農村施策において、「田の神」信仰や、「講」や「組」といった、民俗学が発見し対象としてきた事々が、高く評価され、機能や活用の文脈に乗せられている。伝承という継続の効果に期待が寄せられている。農政学も柳田国男の時代から大きく変化しているのである。これら民間伝承を学知の俎上にあげたのは、あくまで民俗学である。その業績は他に代えがたい。ただ、それらの機能を見つめ、現代社会に応用し、

実際に「活用」の俎上にあげているのは、この新しい農政学なのである。

本シンポジウムは、上記に関わる三者をパネラーとしてお招きする。

一人は、世界文化遺産の推進と重要文化的景観、それらによる地域社会の振興という課題を与えられ、真摯に努力し、成果を上げている現場の学芸員。いま一人は、大規模な地域芸術祭において、民俗学の知見を活かし、地域住民やボランティアの都市住民たちとともに、協業しながら、民具を用いた大きなアート作品の創作現場に関与した民俗学徒。そして、「多面的機能」や「地域資源」議論の担い手であり、農村現場でも住民たちとともに地域のより良い振興のために汗を流す、新しい農政学徒である。

これら三者の研究者たちと、シンポジウム会場にお集まりの皆さんで、穏やかな、お互いへの敬意に満ちた議論を進めたい。コメンテーターにも優秀な研究者をお招きした。コーディネーターのみが能力に欠けている。そのため、議論を取りまとめるということは難しかろう。だから、無理に結論を導こうとは考えていない。今回のシンポジウムは、文化財の活用について、そして民俗学と行政の関係の見通しについて、先々のためになる大らかな議論の出発点になればと思う。

コーディネーター： 山下裕作（熊本大学文学部 会員）

パネラー1：  
池田朋生<sup>1</sup>（熊本県文化企画・世界遺産推進課 阿蘇分室 会員）  
報告タイトル： 阿蘇の文化的景観—文化的景観の保存調査の成果から—  
キーワード： 世界文化遺産 ・重要文化的景観 ・文化財の活用 の現場での実態

パネラー2：  
川村清志（国立歴史民俗博物館 会員）  
報告タイトル： 民俗文化からアートへ—現代における保存と活用のアルケミー—  
キーワード： 民俗の終焉、文化財の利活用、文化の共創、アート、インスタレーション、芸術祭

パネラー3：  
福与徳文<sup>2</sup>（茨城大学農学部 非会員）  
報告タイトル： 地域づくりと農政—日本型直接支払による地域資源の保全・活用—  
キーワード： 農業・農村の多面的機能、日本型直接支払、地域資源、地域づくり

コメンテーター1： 俵木悟（成城大学文芸学部 会員）

コメンテーター2： 八木洋憲<sup>3</sup>（東京大学大学院農学生命科学研究科 非会員）

---

1 専門は考古学・博物館学。著書に『人文系博物館教育論』（分担執筆 雄山閣）他、『荅州』（天草の自然と歴史を  
考える会）幹事

2 専門は地域計画学、著書『地域社会の機能と再生—農村社会計画論—』、『災害に強い地域づくり—地域社会の内発  
性と計画—』（共に日本経済評論社）他

3 専門は農業経営学・農業経済学、著書『土地利用計画論—農業経営学からのアプローチ—』（養賢堂）、『イギリスの  
地域農業マネジメント』、『都市農業経営論』（日本経済評論社）他

## 半島のアート、民俗のはて —奥能登国際芸術祭と民俗文化研究の節合の試み—

### 主旨

各地の民俗文化が様々な形で終焉を迎えつつある。人が消え、家が消え、ムラが消えていく。コミュニティが消滅すれば、そこで培われていた多くの民俗文化も終わりを迎える。本シンポジウムでは、終わりゆく地域社会の遺産としての生活用具や民具というモノたちを見つめなおし、新たな息吹を注ぎこむ試みとして、芸術祭という場を捉えなおす。以下では、2021年に開催された「奥能登国際芸術祭 2020+」における「大蔵ざらえプロジェクト」を民俗文化とアートの新たな節合事例として紹介していく。現場への研究者の参与のあり方を問いなおし、アーティストと研究者との対話と協働の可能性を模索したいと考える。

奥能登国際芸術祭は、2017年より、石川県の能登半島の突端に位置する珠洲市を舞台として3年に一度の開催を目指して計画された催しである。半島という地理的特性から、海とのつながり、海を介した他所とのつながりの深い地である。近年では、地域の生業形態や食文化が「能登の里山里海」（2011年）として世界農業遺産に認定された。また、能登半島に特徴的なキリコを中心とした祭礼が、「灯り舞う半島 能登～熱狂のキリコ祭り～」(2015年)として日本遺産にも認定された。

このような地域文化の再編成の只中で始まった芸術祭は、「アーティストの力を借りて珠洲に眠るポテンシャルを掘り起こし、地域の活性化、地域の魅力を高め、日本の最涯から最先端の文化を創造する試み」と位置づけられる。2回目となる2020年の芸術祭はコロナ禍のために一年間延期され、2021年10月から実施されることになった。

この時の出展作品の目玉が、「大蔵ざらえプロジェクト」によって収集された地域の民具や生活用具などの「地域のお宝」をリソースとしたアート作品群である。珠洲市の実行委員会が主体となり、サポーターたちとの協働作業によって、珠洲各地から寄贈の申し出のあった家々を訪れ、多様で大量のモノたちを収集した。これらのモノたちの多くは、市内の大谷地区にある旧西部小学校の体育館を全面改修したスズ・シアター・ミュージアムにおいて公開されることになった。ミュージアム内には、民具の紹介コーナーを含めた8つのエリアにアーティストの作品や民具の展示が行われている。

シンポジウムではまず、スズ・シアター・ミュージアムのディレクターを務めた南条嘉毅から展示会場全体のコンセプトと作品を構成するまでの過程について発表していただく。次に地域を代表するキリコ祭りをテーマとした作品、「待ち合わせの森」を制作した大川友希からは、地域から集められた古布によって構成された祭りについての記憶の所在について解説してもらう。また川村からは、展示会場の最初に設けた「民具」の展示の解説とその意図について紹介する。さらに川邊咲子からは、大蔵ざらえの収集過程での資料の整理の方針とサポーターとの連携過程の成果と課題を発表する。

以上、アーティストと研究者の視点の交錯と対話によって生み出されたスズ・シアター・ミュージアムの試みを通して、民俗文化の活用・保存をめぐる新たな領域展開を目指したいと考える。

日程：2022年7月24日（日）（予定）

会場：国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）を予定 ※詳細に関しては、後日お知らせいたします。